

2004 年度 国際学部
卒 業 論 文

日本の難民認定制度を考える

難民申請者の抱える問題と支援活動から見える課題

宇都宮大学 国際学部

国際文化学科

屋比久 美樹

要約

1981年に日本が難民の地位に関する条約に加入して、2003年までに日本で難民申請を行った人は3118人。このうち難民と認定されたのは315人である。欧米先進諸国が一年間に数千から数万人もの難民を受け入れる中、日本では2003年の一年間で難民として認定したのはたった10人であった。

そこには難民申請にかかる費用の問題から審査の不透明性や申請者の収容、申請中の生活において様々な問題があり、日本の難民認定制度は審査の過程において、また申請中の難民申請者の身分・生活において多くの困難があることがわかった。その問題点について難民支援団体が指摘している点を整理し、また今年行なわれた「出入国管理及び難民認定法」の改正のポイントから現在の日本の難民認定制度の動きを考察していく。また難民申請者や支援者のインタビュー、牛久収容所を訪問し収容者との面会から見えてきた難民の置かれている現状や支援者の活動から、今後の日本の難民認定制度を考えていく。

まず第一章で日本の難民認定制度の始まりから現在に至るまでの経緯を整理し、難民認定手続きにおける問題点を挙げていく。次に第二章においてアムネスティ・インターナショナルと難民支援協会が指摘している問題点を挙げるとともに、昨年「出入国管理及び難民認定法」の改正について取り上げ、難民認定制度改善へ向けた動きについて言及する。続いて第三章においては人権デーパレードや東日本入国管理局センターを訪れ、現地調査をする中で見えてきた問題点を自分なりの視点で整理した。また、アムネスティ・インターナショナルやUNHCRの職員、「アリ・ジャンを支える会」の代表の方へのインタビューを行い、現場で日々難民問題に取り組む人々の貴重な意見をまとめた。終章においてはこれまでの調査から筆者が考察したことをまとめた。

日本の難民認定制度を考える

難民申請者の抱える問題と支援活動から見える課題

<目次>

はじめに	1
第一章 日本の難民認定制度	
第一節 難民とは	2
第二節 日本における難民受け入れの始まり	3
第三節 日本の難民認定手続き	4
第四節 難民認定の申請数・認定数	5
第二章 日本の難民認定制度における問題点	
第一節 アムネスティ・インターナショナルが指摘する問題点	7
第二節 難民支援協会が指摘する問題点	8
第三節 法改正に見られる難民認定制度改善の動き	9
第三章 難民申請者と支援者から見る日本の難民認定制度の問題点	
第一節 人権デーパレード 2004	12
第二節 アムネスティ・インターナショナル日本のスタッフへの メールによる質問とその回答	15
第三節 「アリ・ジャンを支える会」代表へのインタビュー	17
第四節 東日本入国管理局センターを訪ねて	19
第五節 国連難民高等弁務官事務所職員へのインタビュー	22
第六節 難民問題を取り上げたテレビ番組の特集より	24
終章	26
おわりに	28
参考資料	29
参考文献	31

この卒業論文を中村研究室ホームページに掲載するにあたり、本論においてインタビューを行った、裁判中の難民申請者やその他関係者の状況を考慮し、インタビューを含め本文は掲載せず、目次・要約のみの掲載とさせていただきますことをご了承ください。

宇都宮大学国際学部国際文化学科
屋比久 美樹